

大輝教育委員会第750回

< ISO 編 第13回/【5S】 >

先日のISO更新審査では実際に「5S」についての質問がありました。下記の説明文を読んで自分自身がどのように「5S」に取り組んでいるかを考えてみて下さい。 望月

元々は、整理、整頓、清掃の3つを「3S」と言っていました。これに“清潔”、“しつけ”の2つが加わって「5S」となりました。「5S」は1970年代に生まれた、日本発の世界に通用する職場管理の合言葉です。「5S」の意味は、全てが同列にあるものではありません。“清潔”とは「3S」が維持管理されている状態を指し、“しつけ”は「5S」の到達目標と考えるとわかりやすいかも知れません。

●有効活用のポイント

(a) 手段の工夫

スーパーやコンビニのトイレで清掃チェックシートが張り出されているのを目にしたことがあると思います。このように様々な工夫をしながら続けることも効果的です。

(b) 全員参加

経営者やリーダー、あるいは若い人たちだけがいくら頑張っても「5S」は定着しません。役職や年齢などを問わず、1人ひとりが自分の持ち場で何をすべきかがよく理解され、身についていくことが大切です。「5S」に関して自分の責任がどうあるのかを理解し、自ら行動できるようになりましょう。会社や物への感謝の精神をはぐくむことにもつながります。

【参考文献】日刊工業新聞社発行 工場管理 2011年2月号 ・「5S」 鈴木 徹氏

あなたはどのように「5S」に取り組んでいますか？

- ・ 毎日の終業時に周りを片付ける。 ・ 気が付いたゴミは拾う。
- ・ 毎週木曜日にエアコンのフィルターを替えている。 ・ トイレをきれいに使う
- ・ 毎月最終稼働日に普段やらないところを掃除する。
- ・ ごみは捨ててから帰る。 ・ 机の上を片付ける。
- ・ 制服をしっかりと着る。 ・ 使ったものは元の場所に戻す。 などなど